



義援金活用「トイレトレーラー」お披露目 サンドウィッチマン、気仙沼市に寄贈



上:「ホヤぼーや」をリフトでトイレトレーラーに乗せる(左から)富沢さんと伊達さん
下:トイレトレーラーから降り使い心地を語る富沢さん(中央)と伊達さん(右)ら=6日午前10時20分ごろ、気仙沼市町裏の安波山

2人が津波から逃れた安波山で、菅原大震災直後に開設した「東北魂義援金」を充てた。慰問した被災地の避難所でトイレの不便さを多く耳にし、トイレトレーラーの寄贈を決めた。

車両購入には、サンドの2人が東日本大震災直後に開設した「東北魂義援金」を充てた。慰問した被災地の避難所でトイレの不便さを多く耳にし、トイレトレーラーの寄贈を決めた。

熊本市動植物園の震災復興を絵本に 「どうぶつたちもこわかった」

熊本地震の発生から全面開園まで、熊本市動植物園(東区)の2年8カ月を語り継ぎたいと、イラストレーターのコダ・ヨーコさん(合志市)が絵本「どうぶつたちもこわかった」を出版した。被災後の同園を知るコダさん。「動物たちを支えた飼育員さんの頑張りを忘れないように」と、温かなまなざしで復興までの日々を記録している。



▲「どうぶつたちもこわかった」英訳付きの32ページ、1320円。動植物園、現代美術館などで販売している。



はコダさんが手がけた112018年12月、熊本市東区

コダさんは、18年12月22日の全面開園の日が今も忘れられないという。「子どもたちの笑顔が輝いて、動物園はキラキラしていた。ここは希望の場所だと感じた」。地震を経験していない子どもたちに、ここで起きた出来事を知ってほしい、そして今も孤独を感じている被災者に手に取ってほしいと話す。「つらいのは自分だけじゃなかったと思える日が来てほしいと願っています」

we support ↓
RQ
災害教育センター
MONTHLY
復興支援 『すけまきた』改め 『しんぶん』
「東北に黒糖を送ろう!大作戦しんぶん」
「すけまきた」とは宮城県登米市あわりの言葉で「ボランティアに来たよ」という意味である
DECEMBER 11 2022
文責:井上文子(西表島エコツーリズム協会 東北復興支援担当)